



第百二十三號 (第十一卷) 昭和六年七月

月の寫眞・オン・パレード

次ぎの頁から、以下第 320 頁まで連續する「月」の寫眞は、中村要氏が秘藏される天體寫眞原板から復寫したものであつて、

撮影者は、言ふまでもなく、中村氏自身、

場所は、花山天文臺、

器械は、三十センチのクック赤道儀、

其の接眼部の主要焦點に乾板を裝置し、

口径は約八センチにしほり、

露出時間は、最も月齡の若い時に、約8秒時、

それから漸次短くなつて、

満月の時には、約 $\frac{1}{2}$ 秒時に短縮された、

撮影は、多く、昨年の初め、一月から三月頃までに行はれた。

ひろい空を渡る數知れない大小天體のなかで、

夜の天空に最も輝やかしく、又、

最も多くの人々に親しまれる此の「月」の姿を、

毎夜々々移り變るまゝの形にして、

かうした寫眞に並べて見ると、

まことに慕はしくもあり、

愛すべくもある！